

AIを活用した観光情報の分析とスマートな魅力発信による地域経済活性化

採択事業者名 AVA Intelligence株式会社
 コンソーシアム構成員 AVA Intelligence株式会社 | 株式会社エス・ピー・シー

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	AIを活用した観光発信の仕組みと効果 データを活用した観光コンテンツの作成方法/知見共有
勉強会の当初のゴール想定と結果	データ分析をもとに観光コンテンツの作成やPR施策を打つことでどんな効果が得られるのかを共有し、データや技術を活用した今後の観光PRについて議論。
参加者	大洲市DMO キタマネジメント、大洲市役所観光まちづくり課、内子町観光協会 愛媛県観光国際課、しまなみJAPAN、県内観光事業者(フジトラベル、バス会社など)
協議アジェンダ	事業概要の説明から始まり、AI技術やデータを活用した観光発信の仕組みを説明。当社が得たデータや知見を共有した上で、今後の観光テーマについて議論した。
データに基づく協議ポイントの整理	旅行観光における全国的なトレンドの理解。愛媛県内特定エリアにおける旅行者動向の理解。デジタル発信する上で気をつけること、効果の出しやすい施策共有。
主なデータ項目	旅行トレンド、県内旅行者動向、検索エンジン最適化施策、競合分析データ
協議におけるガイドライン(含む具体例)	全国的な旅行トレンドとして、注目されたワードやテーマに触れ、さらに県内各地域ごとに注目されているテーマを共有。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	全国トレンドと地域ごとのテーマを掛け合わせ、さらにオリジナリティ(現地だからこそわかる魅力)を入れたコンテンツを作成することで、より旅行者の興味関心を引くことができることが、実装データから証明された。

興味関心	1	2	3	4
東予	自然	アクティビティ	温泉	景色
中予	温泉	グルメ	自然	景色
南予	自然	景色	歴史	子連れ



データ活用・協議の具体例		
	実装前	実装後
重要指標例	・旅行者の特徴(どこのどんな人が、どんな興味関心/目的で愛媛県へ旅行するのか) ・エリア/地域ごとにどんな観光地があり、中でもどんな目的の旅行者が多いのか	
データ取得	旅行者からのアンケートやホテルから報告されるデータ	どこにいるどんな旅行者が、どんな興味を持って愛媛県へ旅行に来るのか、どこと比較検討しているのか、より具体的なユーザー動向データが取れるようになった
データ利用	データの取得自体が限られており、不完全なデータをもとに話し合いのもと予測を立てる	以下のデータを可視化し、施策を考えることができる ・興味の持たれやすい/持たれにくい観光地 ・旅行者の属性や興味関心
実行	経験や勘を頼りにマーケティング施策を実施するものの、どれだけ効果があったのか見えにくい ※観光サイトをきっかけにどれだけ人が観光地を決めたり旅行誘致に繋がったのか不明	以下のようなエリアごとに興味持たれやすいテーマでコンテンツを作成し県外へアピールする 東予: 自然、アクティビティ 中予: 温泉、グルメ 南予: 自然、景色
協議	情報/専門的な知見を持った人材/資金面など、限定的なりソースの中で良い施策出しを行うことが難しい	作成したコンテンツがどれだけ興味関心を持たれたか、閲覧数や予約送客数などをもとに結果を確認し、次のテーマや施策を協議

データ活用・協議による成果
全国トレンドとエリアごとの特性、さらに愛媛へ興味を持ちやすい旅行目的を明確にし、それに即したコンテンツを作成し配信することで、提案ヒット数が実装前と後で約20倍に成長させることができた。